

太田道灌ゆかりの地を探索

1486年（文明18年）7月26日、主君上杉定正の糟屋館におびき出されて謀殺された太田道灌。その首は**大慈寺**に葬られ、胴は**洞昌院**に葬られたのだという。

大慈寺 伊勢原市下糟屋 346-1

鎌倉に建長寺の末寺として覚智が開いた臨済宗建長寺派の寺院で、本尊は観音如来像。



首塚 伊勢原市下糟屋 364



洞昌院(とうしょういん) 伊勢原市上粕屋 1160

阿弥陀如来立像を本尊とした曹洞宗で、太田左衛門大夫持資入道道灌（法名洞昌院心圓道灌、文明18年卒）を開基として、崇旭（長禄二年卒）が開山となり創建したといひます。天正19年寺領3石の御朱印状を受領、近隣に末寺を擁する中本寺格の寺院だったようです。

(境内案内版)



観音巡礼塔



本堂



道灌御霊廟

道灌の墓



(墓入口)



(大木が台風で倒れ、荒れ果てていた)

七人塚 太田道灌が上杉定正に襲われた時に討死した家臣7名の墓。



以上